展覧会広報のお願い

「谷崎潤一郎をめぐる人々と着物」
～事実も小説も奇なり～

図１

谷崎潤一郎は、「もう少し長生きしたら、ノーベル文学賞を受賞した」と言われ、世界的に評価の高い小説家です。本展は、谷崎文学の登場人物のモデルに焦点を当ててみました。

「事実は小説より奇なり」という言葉がありますが、谷崎はその生涯自体が、まさに波瀾万丈で驚愕のエピソードに満ちています。実生活の出来事は作品に反映され、主要な登場人物は実在した人々をモデルに造形されました。

本展では、小説家・中河與一が谷崎潤一郎の生涯を書いた作品「探美の夜」に添えられた田代光の挿絵を用いて、谷崎の人生を辿りつつ、モデルになった人々を紹介していきます。彼等が着用した着物や装飾品の数々も御覧いただきます。

さらに、彼等をモデルとして創作された作品の登場人物の装いを、アンティーク着物で再現しました。谷崎は着物にこだわりの強い作家で、衣裳は登場人物たちのキャラクター表現の一端を担っています。

社会の枠におさまりきらず、世間から非難と好奇の目で見られることも多かった谷崎の、生涯、モデルになった人々、そして悪魔的な文学の魅力を、着物と挿絵で堪能いただきます。

2021年10月2日(土)～2022年1月23日(日)

弥生美術館

谷崎文学のモデル
初

「あらゆる悪事が美貌の女に
許されなければならない」 「神童」より抜粋

図２
地獄極楽図の留袖。地獄、髑髏、蜘蛛の巣など、妖しく毒のある文様は粋筋女性が好んで着たものである。田中翼コレクション／蔵

図３
谷崎は若い頃、『お艶殺し』『お才と巳之介』など、悪女型の女性をヒロインにした作品を立て続けに書いた。そのモデルになったのは、初をはじめとする多くの粋筋女性たちであった。当時は、毒婦と言われる悪女型の芸者が人気を集めてもいた。
田代光／画

図４
谷崎潤一郎
『お才と巳之介』
竹久夢二／装幀

「神童」の着物

図５
谷崎は生家が貧しかったため、中学進学時、他家に家庭教師として住み込み、学費を出してもらった。裕福な商家であるその家の用事で花街に行った谷崎は、芸者の存在を知った。美と色香を売りものにする女たちへの賛美が、やがて谷崎の「悪魔主義」につながっていったのではないだろうか。
田代光／画

図６ 田中翼コレクションより

谷崎文学のモデル
千代

「小田原事件」「妻譲渡事件」の衝撃

谷崎は大正4年に最初の結婚をしたが、直後から妻の千代に不満を持つようになった。当時の谷崎は悪女型の女性を好んでいたが、千代は良妻賢母型であった。千代の妹、せいは小悪魔的な魅力を持っており、谷崎は次第にせいに惹かれ、千代をないがしろにするようになった。それを見た文学者仲間の佐藤春夫が千代に同情し、同情は愛情に変わり、千代も春夫に心を託するようになった。谷崎は千代と別れ、せいと結婚するつもりで千代と春夫の結婚を認めた。しかしせいにそのつもりが無いとわかり、前言をひるがえしたので春夫が激怒し、二人は大正10年絶交した。これを「小田原事件」という。
その10年後の昭和5年、再度千代と春夫の結婚が話し合われ、とうとう千代は春夫の夫人となった。その際、関係者に配った挨拶状があだとなって新聞に書き立てられ、社会問題にまで発展した騒ぎを「妻譲渡事件」という。

参考画像・千代と娘の鮎子
（谷崎と千代の娘）

図７
谷崎と妹・せいの関係を知った千代は、苦しみを春夫に訴えた。
田代光／画

参考画像・千代と春夫の一家
昭和７年

図８
千代と春夫の結婚を一度許しておきながら、ひるがえした谷崎に春夫は激怒した。
田代光／画

「蓼食ふ虫」の着物

「蓼食ふ虫」は谷崎の代表作のひとつ。大正3～4年の作であり、物語の前半には、当時の日本人が抱いていた西洋へのあこがれが感じられるが、後半、主人公は日本の古典趣味に傾倒してゆく。関東大震災を機に、横浜から関西に移住し、日本の古典世界に目覚めた谷崎自身の心境の変化を反映している。

図９
「蓼食ふ虫」の主人公・要は暇つぶしに「千夜一夜物語」を英文で読んでいる。
妻には恋人がいるが、要は公認している。年下の青年とのあいびきにでかける妻の着物に、西洋の都会の夜景を描いた着物が似つかわしい。帯には「千一夜物語」の文字が書かれている。
田中翼コレクションより

谷崎文学のモデル
せい

ナオミズムは、モダンガールの先駆けとなった

せいは、谷崎の最初の妻・千代の妹で、14歳から谷崎の家で養育されていたが、早くから妖女の片りんを見せた。谷崎はせいに魅了されて、千代をないがしろにするようになった。せいをモデルにヒロイン・ナオミが造形された「痴人の愛」は人気を博し、その奔放さが若い女性に与えた影響は「ナオミズム」といわれた。当時は「モダンガール」という言葉が誕生した直後であり、まだ一般的になっていなかった。ナオミズムはモダンガールのさきがけともなった。

参考画像・せい　大正13年頃
浜本浩／撮影

図１０

図１１
谷崎は、一時期、大正活映という映画会社で脚本部顧問をつとめたが、大正9年封切映画「アマチュア倶楽部」の主役にせいを抜擢し、彼女は映画スター・葉山三千子となった。

参考画像・「アマチュア倶楽部」
ロケ地での記念写真　大正9年
前列左から5人目谷崎、せい

「痴人の愛」の着物

図１２

「痴人の愛」の中で、主人公はナオミに、さまざまな着物を着せて楽しむ。従来からあるものではあきたらず、オーガンディーや、ジョウゼット、コットンボイルなどの洋服地を着物に仕立てるということも試みる。雷の閃光文様の着物は生地がジョウゼット。帯には雷神が描かれ、帯揚げの文様はおたまじゃくし、帯留は蛙。田中翼氏がコーディネートにこめたストーリーを読み解くのも楽しい。
田中翼コレクションより

図１３
蝶文様の着物。奔放で華やかな性格のナオミをイメージしてコーディネート。原色の渦巻きに蝶を描いた着物。
田中翼コレクションより

谷崎文学のモデル
松子

「女というものは
神であるか玩具であるか」 「蓼食ふ虫」より抜粋

図１４
染色作家の稲垣稔次郎（明治35～昭和38年）が松子のために制作した青楓文様の着物。
青と緑のグラデーションが爽やかな絽。個人蔵

参考画像・松子

谷崎潤一郎は昭和2年、松子と出会い惹かれたが、松子は当時大阪の老舗・根津商店を経営する人の妻であり、二児の母でもあったので、手の届かぬ存在として谷崎はあきらめた。
その後、谷崎は最初の妻・千代と離婚。昭和6年に二度目の妻・丁未子と暮らし始めたが、昭和7年に松子の夫の店が倒れると、松子から谷崎あての手紙が届き、二人の交際が始まった。昭和10年、谷崎は丁未子と離婚し、松子と三度目の結婚をした。谷崎は松子の下僕のように振る舞うことを好んだという。

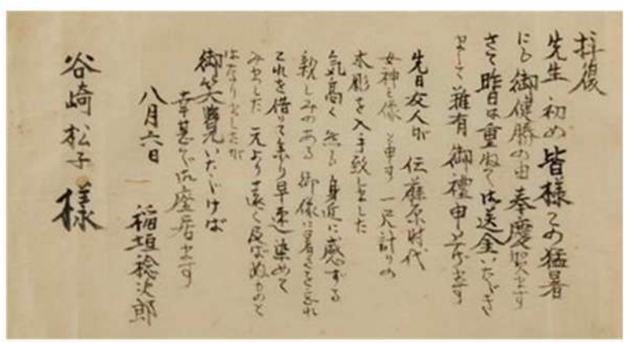

図１５
稲垣が谷崎・松子にあてた手紙も残っている。着物の制作に関する手紙と思われる。
（稲垣は昭和37年、型絵染の人間国宝に認定された。）
個人蔵

図１６

「細雪」の着物
松子とその姉妹をモデルにした作品。田中翼氏が彼女たちのイメージに合わせた着物をコーディネート。
田中翼コレクションより

図１７

「鍵」の着物
「鍵」は発表当時、猥褻物に当たらないかと、国会の法務委員会で問題となったが、今日では高齢者の性を題材にした作品の嚆矢とされている。欧米でも高く評価されており、谷崎作品が諸国で多く翻訳される契機となった。
田中翼コレクションより

図１８
谷崎と松子は昭和10年に結婚し、以後の生涯をともにした。
田代光／画

谷崎家の女性たちが愛用した装飾品類

松子や妹の重子、娘の恵美子など、「細雪」に登場する女性の
モデルたちが使用した装飾品の数々。

図１９
谷崎家の女性たちが愛用した装飾品
夕顔コレクション／蔵

谷崎文学のモデル
谷崎自身

お騒がせな天才

谷崎作品の中には、「風教上に害がある」という理由で上演を取りやめられた戯曲や発売を禁止された小説など、問題作も多々ある。「細雪」は、戦争中という時局に合わないという理由で軍部から刊行をやめさせられたが、谷崎は戦火を逃れながら書き続け、少部数を知合いに配り続けた。終戦とともに刊行されるや、戦前の情趣に満ちた暮らしへの郷愁から、爆発的な人気を博した。谷崎の反骨精神をうかがわせるエピソードである。
また、彼はプライベートな面でも何度か新聞沙汰になった。
社会の枠におさまりきらず、世間から非難と好奇の目で見られることも多かった谷崎だが、その自由奔放さこそ、創作の原動力であった。

図２０
谷崎潤一郎が着用した長襦袢。大津絵が描かれている。
上原誠／蔵

■展覧会概要■

「谷崎潤一郎をめぐる人々と着物」
～事実も小説も奇なり～

主催　一般財団法人鹿野出版美術財団　弥生美術館
会場　弥生美術館　〒113－0032　東京都文京区弥生2-4-3
会期　2021年10月2日（土）～2022年1月23日（日）
展示数　着物約35点　挿絵原画69点　帯や装飾品多数　装丁本約10点
電話　03－3812－0012（代）
HP　https://www.yayoi-yumeji-museum.jp
休館日　月曜日・火曜日、年末年始（12月27日～1月3日）
※11月23日（祝火）、1月10日（祝月）開館、
料金　一般1000円　大高生900円　中小生500円
（隣接する竹久夢二美術館と二館併せての料金。
高畠華宵の常設ルーム見学料も含む）
交通　東京メトロ千代田線根津駅or南北線東大前駅　共に徒歩7分
JR上野駅公園口・しのばず口より徒歩20分
（東京大学　弥生門斜め前）
関連書籍『谷崎潤一郎をめぐる人々と着物 ～事実も小説も奇なり～』（東京美術）
10月2日刊行予定
担当学芸員　中村圭子、中川春香
連絡先　電話：03-3812-0012

※新型コロナウイルスの影響により、会期、休館日等が変更になる可能性があります。
変更の際はホームページに掲載します。

■展覧会の見どころ■

◆無類の希少性と華麗を誇る、田中翼氏のアンティーク着物コレクションよりスタイリングされた、谷崎文学の着物。

◆「探美の夜」挿絵原画 69 枚、一挙初公開。「探美の夜」は、中河與一が谷崎潤一郎の生涯をテーマに書いた小説。昭和 31 年 10 月から 34 年 11 月まで、『主婦と生活』に連載され、挿絵は田代光が描いた。田代光の巧みな筆さばきで谷崎の波乱に富んだ人生を御覧いただく。

◆千代、松子、春夫など、谷崎ゆかりの人々の愛用品も多数展示。

※画像を使用する際には、「撮影：大橋愛」と併せて
『谷崎潤一郎をめぐる人々と着物』（東京美術刊）とご記載ください。

FAX　０３－３８１２－０６９９　　弥生美術館　中村　行

「谷崎潤一郎をめぐる人々と着物」　画像使用申込書

画像データのご提供ついて

・同封のプレスリリースに掲載の図版について、本展の広報用に限り画像データをお貸出しいたします。
ご希望の場合は、この申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX　03-3812-0699 までお申し込みください。
使用後はデータの破棄をお願いいたします。
美術館写真（外観／展示室）等を必要とされる場合は、通信欄にお書きください。
・掲載・放映後は、掲載紙・DVD 等を下記住所までお送りいただきますようお願い申し上げます。

読者プレゼント用招待券のご提供について

読者プレゼント用にご招待券（5 組 10 名様分）をご用意いたします。この用紙にてお申し込みください。

画像送付日　　月　　日　必着

貴社名／貴媒体名	
発売／放送予定日	
ご所属・ご担当者名	
ご住所　〒	
TEL	FAX
メールアドレス	

ご希望の図版番号に〇をしてください。

図版番号（プレスリリースをご参照ください）

1　2　3　4　5　6　7　8　9　10

11　12　13　14　15　16　17　18　19　20　　チラシ画像

読者プレゼント招待券　（5 組 10 名）	希望する	希望しない

【通信欄】

【お問合せ・掲載物送付先】〒113－0032　東京都文京区弥生２－４－３　　弥生美術館　　担当：中村、中川
Tel：03-5689-0462　Fax：03-3812-0699